

過岩松院 院在信州小布施

岩松院がんしょういんに過よぎる 院いんは信州小布施しんしゅうおがせに在あり

初訪古名刹 地閑春景奇

初めて訪とふ 古名刹こめいさつ 地かんは閑かんにして 春景しゅんけいは奇きなり

四山紅爛漫 一徑綠參差

四山しざん 紅爛漫こうらんまん 一徑いっけい 綠參差りよくしんし

舊址嗟今日 新堂問昔時

旧址きゆうしに今日こんにちを嗟さし 新堂しんどうに昔時せきじを問とふ

岩松長不變 君莫待花期

岩松がんしょう 長ながく變からず 君か 花期かきを待まつこと莫なれ

初めて古くからの名刹岩松院を訪れた。土地は閑かで春景色は素晴らしかった。四方の山は紅の花が爛漫と咲き誇り、一本の小道は緑が続いている。古跡を訪れては今日の現実を嘆き、新しくなった御堂では昔の様子を尋ねてみる。岩と松の名の通り岩松院はいつでも変化することはない。だから諸君、必ずしも花の時期を待つて訪ねることはないのだ。

(二〇二六年一月二十八日改作)

*岩松院は詩題にあるように信州小布施の古刹。北斎の天井画で有名である。私が訪ねたのは二〇〇二年のことで、その時、善光寺近くの古本屋で『詩韻含英』を購入して、この原詩を作っている。